

若竹

~WAKATAKE~

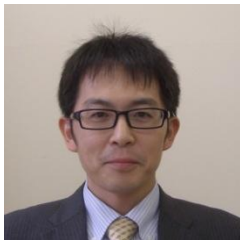
第44号

2012/1/31発行

百人一首大会が終わり、柔道大会を控える今、寒さは一層深まり、とくに朝の冷え込みが厳しく、起床に気合いが必要な日が続いています。厳しい寒さに乗ってインフルエンザの嵐が白陵を襲っています。体調や予防に気をつけていても、思わぬところからやってくるウイルスには、一刻も早い退散を願ってやみません。中学部のみなさん、入試に緊張を高める高校生を見習って、気を引き締めてこれからの厳しさを乗り切っていきましょう。

『忘れられない言葉』

勝山悦成先生（事務）



超氷河期の時代に就職活動を行った大学4回生の時、内定が出ず、全く希望していない業種の就職セミナーで、人事担当者が話をした言葉が今でも忘れられません。「この時代就職が非常に難しく、内定が早く出る人もいれば、卒業式の一週間前になる人もいます。就職で一番大切なことは、内定が早く出ることではなく、いかに自分に合ったスタートラインに立てるかです」。この言葉を聞いてから、自分の就職活動が180度変わりました。

積極的に試験や面接を受け、ある企業面接の質問で、人事担当者の言葉を答えとして話をしたところ、面接合格を確信させる言葉を言われたことがあります。

ご縁があって、白陵中学校・高等学校に就職を決めた後、大学の就職課に立ち寄り、就職活動報告書を書いていた時に、一切公表しないので、就職課の参考のために意見を書いて下さいと書かれた欄を見つけました。私は人事担当者の言葉と、大学の就職ガイダンスで、全国でもかなり有名な就職課の部長が我々に対して怒鳴り口調で、「就職の内定が7・8月までに出ない学生は、就職活動が失敗したと思え」と言ったことを思い出しました。私は「就職はいかに自分に合ったスタートラインに立てるかが大切であるのに、内定が早く出た学生の就職活動が成功と言ったあなたの言葉はおかしい。」と反論文を書きました。

後日、大学の就職課に立ち寄り、自分が就職を決めた白陵中学校・高等学校のファイルを何気なく見た時、一切公表しないと記載された欄に書いた反論文のコピーがファイルされていたことに驚きました。自分の主張は間違っていなかったと確信した瞬間でした。

君たちも将来、自分に合ったスタートラインに立つために、しっかり考え、迷ってほしい。それを繰り返す中で、自分に合った進路が見えてくると思う。無数の選択肢の中で自分の力でしっかり選んだ道が、自分に合ったスタートラインになると信じています。

東日本大震災から見たもの

中 3 副担任 (生物) 大森 真治



2011年3月11日14時46分。あの時の衝撃は一生忘れることはないだろう。ライブ映像で見た津波の様子は、全くこの世のものとは思えないものであった。私は、大学在学中の6年間、「杜の都」仙台で過ごした。内陸に位置する中心部は、白陵の

死者	1万5844人	大震災被災者 (26日現在 警察庁調べ)
不明者	3469人	
計	1万9313人	
避難	33万4786人	(15日現在復興対策本部調べ)

学園道路にもあるケヤキ並木通りが東西に見事に整備されており、街の象徴の一つである。一方で、沿岸部は東北地方でも有数の田園地帯と日本有数の漁港があり、遠洋漁業が栄えていた当時は、気仙沼港、石巻港を中心に活気あふれ、現在でも気仙沼はカツオ漁、石巻ではサンマ漁、塩釜ではマグロ漁の一大拠点となっていた。また仙台港は水産加工品やビール、工業製品などを集める東北最大の港であった。そう、あの時までは・・・。

私は、現地を訪れたい気持ちを募らせながら、9月下旬その機会をいただけた。すでに友人や知り合いの無事は確認できていたが、自分の目で、第二の故郷を確かめたかったからだ。目的は、恩師や友人と会うこと、現状を知ること、戻って伝えることであった。訪問地は宮城県の沿岸部(女川町、石巻市南部～山元町)及び、福島県の緊急時避難準備区域内の飯館村、川俣町などである。

宮城県は、起こるべく宮城県沖地震を想定し、平成16年に新たに防災訓練や、災害マップを見直し、地震の備えに力を入れてきた地域で、過去にも明治三陸地震や昭和三陸地震をはじめ多くの地震、津波に襲われ、その度に復興してきたいわば地震に対するエリート地域である。そんな地域で起きた大震災。死者・行方不明者は県内だけで1万人を超える、まさに想定外の大震災であった。

最初に訪れた名取市閑上地区もそのひとつである。死者700名超と住民の10人に一人が亡くなった。閑上地区の避難所は閑上小、閑上中、閑上公民館の三つの位置関係を右の地図に示している。被害の拡大にはいくつかの要因があった。地震直後から人々の行動は、奇異なものであった。5分以上逃げようとせず、あたかも普通を装った行動をとる。



これは特別な行動ではなく正常性バイアスと呼ばれるものだ。その後海岸線沿いの住民から我に返ったように逃げ始める。ところが車は5差路の信号機が止まり、閑上大橋は通行止めで大渋滞。さらに避難所の校庭や駐車場にも大挙人が押し寄せた。脇道を通れば仙台東部道路より内陸に逃げられたはずだが、人々はそうしなかった。みんながいるところにいれば大丈夫。これが同調バイアスである。すでに冷静さを失い、呼びかけにも集団は応じなかったようだ。また、他人を助け

閑上地区に残る数少ない建物



ようと一人暮らしの老人の家を訪れるなど、他人の配慮をするばかり、自分の身を危険にさらす愛他行動もその一つである。さらに、海岸線と並行して貞山堀が伊達政宗の時代に築かれ、人々の中に、この堀を越えて津波は来ないと信じていた人も少なくなったようである。このように被害拡大には幾重にも要因が重なっている。マニュアルがあるだけの無力さ、行動を伴ってこそ役立つマニュアルである。

6か月たった後も、関上小では震災時に卒業式だったのか、廊下に「卒業おめでとう」のデコレーションそのままであった。その横には泥まみれのランドセルが幾重にも重ねられて置かれていた。9月30日まで体育館で流失物や遺品などが並べられ、駆け込みで探しに来られている方が多くいた。また、沿岸では手向けられた花束があちこちにあり、ちょうど通行止めが解除されたところであったため、乗用車で住まいのあったところに来られては、目頭を押さえながら帰られる被災者の方もいた。復興には程遠く、胸が締め付けられ、何もできず写真を撮っている自分に罪悪感を覚えたことを鮮明に覚えている。

一方、マニュアルがあった上での臨機応変な判断が生死を分けた事例もある。単線である仙石線野蒜駅をほぼ同時に出発した、上り電車と下り電車は3分後に地震にあった。上り電車の車掌は乗客を集め、内規通り最も近い避難所へ誘導した。しかし、避難所へ着いた直後に津波が襲い、数名が亡くなったそうである。電車に残っていれば、誰ひとり生き残っていなかったであろう。マニュアルは役割を果たしたといえよう。一方の下り電車も同様に避難所への誘導を進めていた。ところが、近隣に住む乗客の一人が「ここが最も高台、逃げるとかえって危険だ」という判断のもと待機した。その結果、電車の手前で津波は止まり、奇跡的に津波の被害を免れた。その他にも各地で冷静で機転のきいた対応が生死を分けた事例は少なくない。

被災地は必死で動いている。しかし動きたくても地盤沈下や放射線などによってどうすることもできない地域も数多くある。今までは生活を取り戻そうと協力してきた。しかし、住環境が仮設住宅などであるとはいえ、一息はついてきた今だからこそ、衝突が増え始める時でもある。東北で起こっている災難を他人事と思わず、冷静な協力と対応が不可欠であり、その最たるが、瓦礫の焼却や汚染土の処理である。国は平常時年間 1mSv 以下の被曝基準を設けた。この数字は 100mSv 以上被曝したときに健康に害を与える研究結果があり、100 歳まで生きた仮定で算出している。ところが、日本人は通常、自然環境下および医療による被曝量は 4.0mSv/年に上る。この数値は今見つかっている最大の汚染米を日本人の年間平均 60kg 食べた値とほぼ同等である。さらに病気の発症率から概算した値で単純な比較にはならないが、喫煙は年間 1000～2000mSv に相当する。この数字を皆さんはどう見るであろう。喫煙者の生存率を考えれば、放射線のリスクはかなり少ないともいえる。何度も言うが、簡単には比較できない。内部被曝は継続的であり、避けられるのであれば避けたい。しかし、既婚女性対象のある調査では、放射線が未検出の東北産のコメを買い控える割合が関東で 3 割、関西では 4 割に上る。放射線は目に見えず、危険であることに変わりはないが、感覚的な行動は被災地を苦しめるだけでなく、日本そのものを苦しめることにつながる。他にも 8000Bq/kg 以下の汚染土や瓦礫は埋め立て処分可能である。全国各地の市町村が測定を重ね、安全に細心の注意を払いながら受け入れようとしているが、住

地盤沈下で冠水(女川町浦宿駅前)



民の反対にあい、12月の段階で受け入れたのは東京都のみである。汚染土は被災地にとどまらず、首都圏でも問題になっている。問題を先延ばしはできない。除染は進まず、各地に広がった放射性セシウムはフードチェーンに組み込まれつつある。原発付近はチェルノブイリの立ち入り禁止区域に匹敵する100万Bq/m²以上を観測している。いまだに福島で第一原発からは毎日6000Bq放出され、一部は降雨や河川の流水によって、海に流れ込んでいる。宮城県に河口をもつ阿武隈川では毎日500億Bqが流れ込んでいるという調査結果も出ている。沿岸流や海流に乗り、海のホットスポットにたまっている。研究機関にはたらく友人は海底近くにいる魚介類の放射線濃度は基準の数倍から10倍程度出ているものもあるという。

解決への道筋は簡単ではない。安心は主観的な問題で、安全は科学的、客観的なものであり、同一に論ずることはできない。科学的な知見に基づく冷静な判断(リスクテイクの考え)をし、同じ日本人として、責任ある行動をとる必要がある。

最後に、気仙沼港のカツオの水揚げ量は今年も日本一である。被災地のいち早い復興を心から祈る。



12.21 土曜サロンにて講演

おめでとう 2011 中3 地域論文

最優秀 「明舞団地 少子高齢化の社会」 春藤あいり・多田果穂・山本衣里奈

優秀作 「絶対に忘れない・未来に伝える1・17」 伏見優輝・平野湧也

「明珍火箸」 石原歩実・石原明莉

奨励賞 「1・17を忘れない」 鵜飼英梨・坂口明日香・安原千晴・吉田佳織

「姫路駅の歩み」 佐藤友理・柴垣美季・西口明菜

その他の論文テーマ

「ニッケと毛織物」 「Feel KOBE」 「豆崎」
 「防災っていいな」 「The history of 香寺」
 「オポナカムラ」 「明石のルーツ」 「姫路伝説」
 「竜野の醤油」 「播磨国分寺」 「山陽道と国道」
 「曾根天満宮」 「黒田官兵衛」 「広島三原城」 「いかなご」 など



百人一首大会

2012・1・20

S 級

第 1 位	J1-4	矢形 綾香	192
第 2 位	J3-3	北口 征暉	169
第 3 位	J3-3	三木あかり	164
第 4 位	J1-2	柏木 悠加	156
第 5 位	J3-2	池田ひなた	155
第 6 位	J1-2	和田 昂己	147
第 7 位	J3-2	吉田 鈴加	140
第 8 位	J2-2	芳本真由子	136

A 級

第 1 位	J1-2	馬場理紗子	113
第 2 位	J3-2	小野 真暉	112
第 3 位	J3-3	野村 実花	110

B 級

第 1 位	J3-2	牧野 竜生	
-------	------	-------	--

C 級

第 1 位	J3-4	進藤 沙耶	
-------	------	-------	--

団体戦

第 1 位	中3-1 (61. 8)
第 2 位	中3-2 (56. 9)
第 3 位	中3-3 (53. 2)
第 4 位	中2-2 (52. 4)
第 5 位	中2-3 (51. 6)
第 6 位	中3-4 (49. 8)
第 7 位	中2-4 (48. 0)
第 8 位	中2-1 (46. 3)
第 9 位	中1-4 (44. 7)
第10位	中1-1 (44. 7)
第11位	中1-3 (40. 2)
第12位	中1-2 (38. 1)



3-1 渡邊佑



この度、百人一首大会で総合優勝した中三の一です。幹事が作文を書くと言うのは……。まあ、それは置くとして、優勝できてうれしいです。正直、中一がみんな強くて驚きました。中二の私たちは……。元気がないように感じました。来年は中三なので頑張っ
てほしいと思いますね。まるで、コメンテーターのように書いてしまいましたが……。振り返ってみれば、嵐の中でも頑張ったか
るた……。優勝できたことは当然かつ感動すべきことです (泣) ま

あどうでもいいことですが、とにかくうれしいです。来年はもう大会には参加できませんが、最後にいい思い出になってよかったです。

1-4 矢形綾香

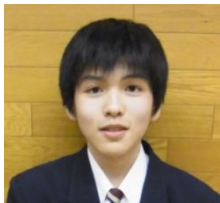


私は小学生の時に、百人一首を四年間していました。なので、百人一首大会が白陵にあると聞いた時はとてもうれしかったです。しかし白陵では学年ごとに戦うのではなく、中一から中三までの人が階級ごとに戦うと知って、とてもガッカリしました。なぜなら、中一が勝つ確率がありえないくらい低くなるからです。でも、小学校からやっていて大好きな百人一首は絶対に負けたくないと思い、日々の練習を必死に取り組みました。そして本番一日前、

私は目標を作りました。その目標とは200枚を取ることです。試合当日、結果は192枚でした。目標は達せなかったけれど、一位になってうれしかったです。来年も再来年も一位を取って、3連覇したいと頑張ります。



3-3 北口征暉



正直、悔しかった。S級のあたりも悪くなかったし、今回はイケると思っていた上に、中一に負けてしまったためである、また友達の一人がなぜか「カップが欲しい」とやたらと口にしてたことも理由の一つかもしれない。クラスも惜しくも三位という結果に終わった。だが、結果よりもプロセスを重視して考えると、百人一首はこの三年間の中で最も意欲的に取り組んできたことである。そう考えると、百人一首大会は自分が思っている以上に、自分を成長させてくれる舞台ではなかったのだろうか、今になっては思う。

3-3 三木あかり



今年が最後だと思うと、とても緊張しました。記念棟は寒いかなと思ったけど、やっている最中は全然気になりませんでした。一回戦では思ったよりもとれなかったのですが、二回戦では落ち着いて頑張ろうと思い、結果30枚取れて、去年までよりだいぶ増えたので、嬉しかったです。私としては、三位というのはとてもいい成績だったので、いい思い出になりました。とても楽しかったです。来年はこの百人一首大会がないと思うと寂しいです。もっとやりたいです。また機会があればやりたいと思います。

1-2 馬場理沙子



百人一首大会。私はその日に向け、寸暇を惜しみ、絶え間ない努力をしてきました。(……嘘ですが) はい、某小説の名セリフを引用させて戴きました。まじめな話、驚いています。百人一首が持つ古典の優美(?)な雰囲気、それぞれの句が持つ感情から、千年前の詠み手の息吹を掴むのは好きでした。が、かるたとしては、少なくとも得意ではありません。それだけに嬉しさも申し訳なさも大きいのですが……。この大会を通して、今の私たちが有意義な何かを感じ取り、新しい何かにしていけること(「温故知新」)を切に望みます。

3-2 牧野竜生



B級という地味なラインで優勝しました牧野です。一年生の時にA級で優勝したのに、B級へ退化して、一見嬉しそうに見えても悲しい。更に一年生の時の賞品と今回の物が同じ緑のルーズリーフセットだったので、一年生の時はルーズリーフを使う可能性がありましたが、結局使わないまま2つになってしまい、転売したいぐらいで悲しい。しかしこの賞品には僕の汗と血と涙とよだれなどが凝縮された努力がギュウギュウに詰め込まれています。最後になりましたが、日本の伝統文化を身近に触れ合えてよかったと思いました。



3-4 進藤沙耶



今年はA級に入れたらいいな、と思いながら一回戦に臨んだものの、同じ班の人たちの雰囲気に圧倒されてしまった上に、自分の近くにある札で上の句を知っている札が余りにも少なかったりして、ほとんど手を出すことができず、C級でした。二回戦では、その分リラックスできたのか、最終的にはC級で一位という結果でした。とりあえずうれしかったです。クラスとしては六位で残念でしたが、そのお蔭で他の三クラスは三位までを独占していました。1~3組の人たちは4組に感謝してください。(笑)



各学年茶話会

中学3年

平成23年10月22日、中学3年生の保護者昼食会を開催しました。今回は木々の紅葉の映える白陵会館ではなく、少し趣向を変えて sea side view を楽しめるように舞子ヴィラを会場に選びました。簡単な挨拶の後、テーブルごとで会食・歓談・写真撮影となりました。子供達が入学してから3年もたっており、クラブ活動などで子供を通じて親御さんをよく知っていたはずでしたが、はじめて聞く話や私が知らない話、さらには先生方にはちょっと憚られるようなプライベートな話もあり、正直意外な発見がありました。私達のテーブルだけでなく、あちこちから笑い声が絶え間なく響いていました。このテーブルの席順も地域ごと・クラブごと・クラスごと等いろいろ考えていましたが、実際は徒労に終わり一安心でした。司会進行役は必要なかったようです。ただバイキングでありながら、デザートがすぐになくなったのは「想定外」でした。予定していた3時間が本当にあっという間に過ぎてしまいました。

最後になりましたが、この会を催すにあたり先生方・事務室の方・保護者の方々にご協力頂き、役員一同お礼申し上げます。次回もまた、皆さんに楽しんでいただけるような会を企画したいと思っております。(池上さん)



中学2年

平成23年11月19日に中学2年生の保護者による初めての茶話会が行われました。あいにくの小雨でしたが、90名近くの保護者の方にご参加いただきました。開始に先立って、《夏のキャンプのDVD》を見ていただき、皆様、我が子の楽しそうな姿や全体の雰囲気

を感じられたと思います。大量のデータを編集してくださった放送部の方々、ありがとうございました。

最初は緊張されていた保護者の皆様も、会が進むうちにうちとけて近隣の席の方とお知り合いになられ、お菓子と飲み物をいただきながら和やかに時間が過ぎていきました。途中、穂原先生の掛け声で先生方が席替えされ、普段お話をする機会の少ない先生方とも交流を深めていただけた事と思います。また今回は、クラブ活動の様子も知りたいという御意見もあり、最後はクラブ別で集まりました。人数の多いクラブは和気あいあいと、少ない文化部は別の部の保護者の方ともお話でき、時間がたつのを忘れるほど盛り上がりました。

御多忙のなか御協力くださった先生方、本当にありがとうございました。

今回、ご都合により参加して頂けなかった保護者の皆様にも、また是非こういう機会が設けられたらと、役員一同考えておりますので、次回もどうぞよろしく願いいたします。(浜中さん)



中学1年

日ごとに暑さが増してきた平成23年7月2日(土)の午後、白陵会館にて中1保護者茶話会を行いました。

中学入学後、2か月がたち、学校での生活、勉強やクラブに関して様々な疑問や不安などを解消あるいは共有できる機会になれば、という目的で企画しました。

当日はお父様を含む118名もの参加がありました。クラスごとに、テーブルに分かれて座り、学年主任、担任及び副担任の先生方を囲んで、お茶とケーキをいただきながらグループ懇談という形式で、和やかな雰囲気の中、行われました。

保護者同士、この日が初対面という人がほとんどで、自己紹介から始まり、先生方へ質問、保護者同士あるいは先生方とのフリートークで、どのテーブルも話に花が咲き、時間が足りないという感じでした。

フリートークの後、保護者からでた主な質問に対して先生方から回答をいただき、みなさんが納得される形で、保護者茶話会を終えることができました。

終了時には保護者のほとんどの方が机、椅子、ごみの分別といった後片付けまで参加してくださり、とても気持ちのよい保護者茶話会となりました。

最後になりましたが、茶話会の開催のあたりご協力いただいた先生方、事務の方々、保護者の皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。(木村さん)

人生を後押し

全国賞 8 名 (生命保険文化センター賞)

三学年 玉田 菜那



毎朝五時起床。朝食を食べ、新聞に目を通し、身じたくをして七時には出社。つなぎを着て働く私の父は、明石で自動車整備業を営んでいる。私が生まれた頃の父は今では想像もつかないがネクタイを締めて大阪で会社勤めをしていた。そんな父に転機が訪れたのは三十歳の時だった。「お父さんがガンなの。」祖母から連絡を受けた。祖父が胃ガンの宣告を受け、胃を三分の二とる手術をすることになった。父は家業を継ぐかどうか決断をせまられ、どうするべきか、かなり悩んだらしい。工場は古く、祖父は継ぐ人間がいなければ店をたたもうかと考えていたようだ。しかし、父は勤めていた会社を辞め、家業を継いだ。父が決断できたのは、祖父が守ってきた創業五十七年の自動車整備工場をたたんでしまうのは惜しいという思いが強かったかもしれないが、祖父がその後亡くなり、ずっとかけてきた保険金が入り、会社を立て直す見通しがついたことも後押ししてくれたと教えてくれた。生命保険はテレビコマーシャルや広告などで老後、ケガや病気の為に個人が加入するものだと思っていたが、会社が将来の安心のためにかける生命保険があることを今回初めて知った。

父は銀行の融資を受け工場を新築し、今では迷いもなく仕事に励んでいる。もし今自分が死んだら家族や従業員に迷惑がかかることになるだろうからと、父は祖父のように皆が困らないだけの生命保険に入っている。それは社長として父として夫としての務めだと言う。たまに父は冗談で、「お父さんが死んだ方が保険金が入って生活が楽になるかもしれないね。」とおどけて言うが、まだまだ父には元気でいてもらわないと、と思う。そんなことが言えるのも生命保険に加入している安心感からなのだ。

休みも少なく、従業員の健康を気づかい、朝は誰よりも早く出社し、いつも会議や残業で帰りが遅い父。友達のお父さんたちが会社勤めで帰りが早いと聞き、うらやましく思う時もあるが、いつも文句も言わず私たちの生活のために一生懸命働いてくれている優しい父を、私は尊敬している。

私の家族は健康で保険など使ったことはないと思っていたが、父の話で人生の大事な決断の時に、生命保険が後押ししてくれていたことを知った。こうして車屋さんとして尊敬できる父がいるのも生命保険のおかげだとも言えるだろう。

亡くなった本人の意志によってかけられた生命保険は残された家族に安心と希望をくれることを知った。父はまだ四十代だけれど、健康を害したり不慮の事故により、生命保険のお世話になることがあるかもしれない。できることなら使わずにいつまでも健康でいてほしい。

「運動不足でしょ。一緒に走ろうよ。」朝六時、体育祭で百メートル走を走ることになった私は、自らのスピードアップと最近おなかの出してきた父の運動不足を心配して、無理矢理一緒に走り始めた。なんだか楽しい。今日で二十日目。いつまで続くか分からないが、忙しいのにつきあってくれる父の健康を願いながら今日もいつもの道を走り出す。